

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 09年3月 ～4-6月期は5四半期ぶりの増産へ

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

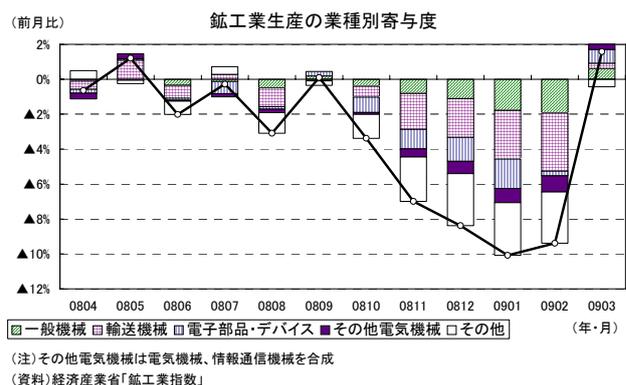
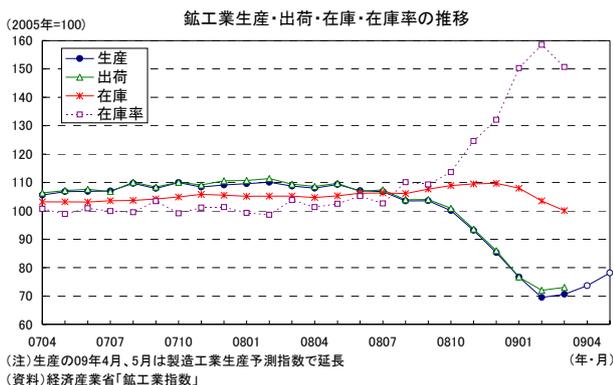
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 1-3月期は過去最大の減産幅に

経済産業省が4月30日に公表した鉱工業指数によると、3月の鉱工業生産指数は前月比1.6%と6ヵ月ぶりの上昇となり、事前の市場予想（ロイター集計：前月比0.8%、当社予想は同0.7%）を上回った。出荷指数は前月比1.4%と6ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比▲3.3%と3ヵ月連続の低下となった。在庫指数の低下が続く中、出荷指数が上昇したため、在庫率指数は前月比▲4.9%と6ヵ月ぶりに低下した。

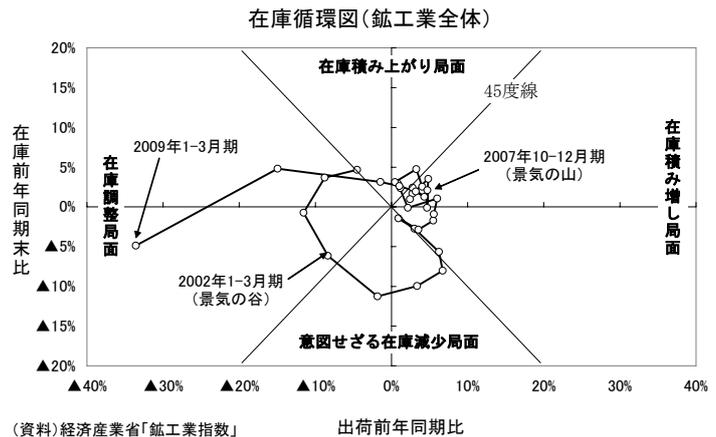
3月の生産を業種別に見ると、在庫調整に伴う大幅な減産が続いていた電子部品・デバイスが前月比10.3%の大幅上昇となったほか、これまで減産幅の大きかった一般機械、輸送機械、電気機械などの加工業種が上昇に転じた。一方、鉄鋼、繊維、化学（除く医薬品）などの素材関連は減産が続いており、業種別にはばらつきが見られた。速報段階で公表される16業種中、6業種が前月比で上昇、10業種が前月比で低下した。

09年1-3月期の生産は前期比▲22.1%と4四半期連続の低下となり、10-12月期の同▲11.3%を超える過去最大の減産幅となった。



財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は10-12月期の前期比▲7.3%の後、1-3月期は同▲19.3%と減少幅が大きく拡大した。また、消費財出荷指数は、10-12月期の前期比▲8.4%の後、1-3月期は同▲20.4%となった。10-12月期のGDP統計では、設備投資が前期比▲5.4%と急速に落ち込む一方、民間消費は同▲0.4%と小幅な減少にとどまったが、1-3月期は消費、設備ともに大きく落ち込む可能性が高いだろう。

在庫指数は3ヵ月連続で低下し、この間の低下幅は▲8.8%に達した。業種別にはこれまで大幅な積み上がりが続いていた電子部品・デバイス、情報通信機械がこの3ヵ月でそれぞれ▲27.5%、▲37.1%の低下となったほか、輸送機械は2月、3月の2ヵ月で▲36.7%と在庫の大幅な圧縮が進んだ。1-3月期の在庫循環図を確認すると、引き続き「在庫調整局面」に位置しているが、10-12月期に比べると在庫調整終了局面に近づいた。

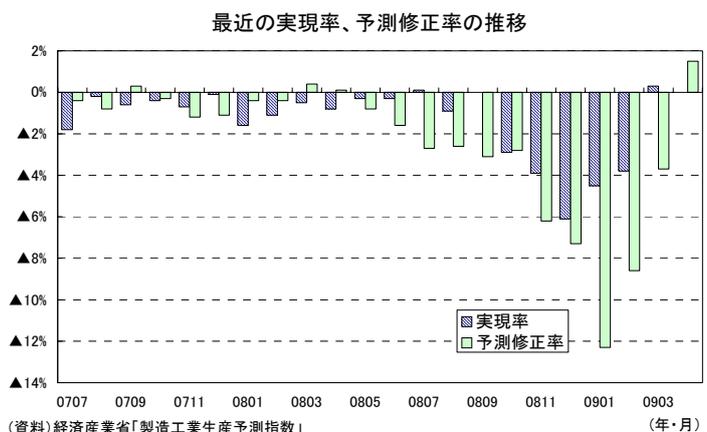


## 2. 4-6月期は5四半期ぶりの増産へ

製造工業生産予測指数は、4月が前月比4.3%、5月が同6.1%となった。これまでは生産計画の下方修正(実現率、予測修正率のマイナス)が続いていたが、今月は実現率(0.3%)が8ヵ月ぶり、予測修正率(1.5%)が12ヵ月ぶりにプラスに転じた。

業種別には、歴史的な減産を続けてきた輸送機械が3月の前月比2.3%の後、4月が前月比5.2%、5月が同28.8%と大幅な増産計画となっているが、一般機械は4月が前月比▲15.5%、5月が同▲0.8%となるなど、業種ごとのばらつきは大きい。

なお、輸送機械は08年8月から09年2月までに5割以上落ち込んだ後、3月からの3ヵ月間で4割近い増産計画となっているが、直近のピーク時(08年7月)に比べると09年5月の水準(3月の実績を予測指数で延長して試算)は依然として4割近く低くなっている。



3月の生産指数を4月、5月の予測指数で先延ばし(6月は横ばいと仮定)すると、4-6月期の生産指数は前期比6.0%の上昇となる。生産計画の下方修正が止まったことも考慮すれば、4-6月期の鉱工業生産は5四半期ぶりに前期比で増加となる可能性が高くなったと判断される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。